

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071100640		
法人名	有限会社 同朋		
事業所名	グループホーム同朋 1・2		
所在地	福岡市南区横手3-37-24 (電話) 092-502-5061		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 23 日	評価結果確定日	令和 3 年 1 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様と職員が、家族のように温かい雰囲気ホームです。3階の多目的室においては、広いスペースを生かして、ひな祭りや運動会など、より体を動かして頂けるようレクリエーションを行っています。また、バランスのとれた食事作りを3食入居者様のお手伝いを頂きながら、温かいうちに、楽しく食事を囲んでいます。終末期をむかえられた時も、老健や、特養に移っていただくことができます。また、法人としても、「つなぐ応援隊」に参加するなど、公民館や同業者の方々と、地域に根差した活動を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 11 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は鉄筋コンクリート5階建ての1~3階にあり4~5階は一般の方の住居である。地域との交流や外出行事の多くは、感染症予防対策として自粛しているが、職員が知恵を出し合い、フロア単位での活動を中心に利用者を楽しませようと努力している。食事は3食とも事業所内で職員が手作りしている。調理過程の音や匂いは食欲がそそられ盛り付けも丁寧であり、視覚でも食を楽しめる。環境面では個室やフロアを含め、全体的に清潔感あり気持ちよく過ごせる。職員同士の仲間意識は強く、コミュニケーションがしっかりととれており、生活の雰囲気が良いことが利用者の笑顔につながっている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の目のつく場所に、表記している。理念を全員で理解共有し、地域にどのような貢献ができるか、常に考えている。	事業所の理念は全体会議、カンファレンス以外でも日頃から職員全体で共有されている。職員はいかに地域の中で利用者が笑顔で生活できるか、感染症予防対策と平行してどのように地域とのつながりを保てるか考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で、地域での買い物等は、減っているが、つながりは、持ちつづけている。	校区全体が認知症ケアに積極的であり、校区の医療介護ネットワーク活動である「つなぐ応援隊」の一事業所として参加し貢献している。近隣の神社へ散歩し、参拝した後、自主的に清掃活動を行う事は、地域一員として活動支援につながっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦で、地域の方とお会いする機会は減っていますが、連絡、報告は、書類にて行っています。少しでも、事業所の取り組む姿勢を理解して頂けるよう、努めています。	運営推進会議は感染症予防対策もあり、参加形式での会議は中止しているが、参加メンバーとは、書面や電話で意見交換を行っている。今後も地域の感染状況など配慮しながら、参加形式での会議を開催できるかタイミングなどを検討する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ渦では、電話での交流ではありますが、多くの局面で、御相談、ご協力を頂いている。	行政とは、日頃から事業所便りを配布したり、入居相談、空き情報を提供するなど連携している。公民館で開催される認知症カフェでは、介護相談員として参加予定もあり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会の会議を、3ヶ月に1回行い、職員全員で身体拘束を行なわないケアを、めざしている。	ペースメーカー術後の傷の保護、トラブル回避を目的として、医師の指示もあり、約1か月間ミトンによる拘束を実施した。期間中は身体拘束に関するマニュアルに則り利用者の傷や心身の状態に関して記録し家族へ状況説明を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	コロナ渦で、外部研修は、参加できていないが、自主研修にて、虐待に対する話し合いをもっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自主研修にて職員全員が成年後見制度について、学んでいる。実際に利用されている方も多いため、身近な制度として、職員一人一人が体感している。	権利擁護の制度に関して、玄関にパンフレットを準備し、必要時に家族へ説明している。全職員を対象に、制度の基本など理解を深めるため、年間計画に基づき、内部研修を開催した。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や、重要事項説明書に基づき、十分理解して頂ける様、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気になることがあると、すぐにご家族に連絡して、ご意見や、ご意向をお伺いしている。細かくコミュニケーションをとることにより、話しやすい対応を心がけている。	利用者、家族に対して運営推進会議を開き、家族会のみならず日頃から相談や要望を聞く体制がある。利用者から出た意見では、水分補給時間の変更や、外出の希望に対応した。家族から同法人の施設見学会の要望があり、地域住民も交えて、バスを貸し切って実行した。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行なって、意見や希望を聞いている。職員全員で話し合うことにより、一人一人が働きやすい環境になるよう努めている。	管理者は全体会議やカンファレンスで職員が意見を言いやすいように、司会進行などに配慮したり、日頃から職員の意見を聞く体制をとっている。利用者の排泄支援に関する細かなことや、フロアごとのレクリエーション企画の運営など、職員主導で取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のちょっとした時間に、なにか困りごとはないか、気になることはないか、コミュニケーションを、図っている。個人の特技など活かせるよう、配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢に関係なく行なっている。職員は、勤務年数の長い者が多く、楽しく仕事をしている。</p>	<p>現在は、女性だけの職員だが、勤続年数が長い職員が多く、利用者は慣れた環境で生活できている。職員が希望する資格取得や研修受講など、職員の自己実現、キャリアアップに向けて、シフト調整などの支援がある。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>朝の申し送りや、カンファレンス等で、常に人権に配慮した介護を行なう様、職員間でお互いに声を掛け合っている。</p>	<p>人権研修は年間の内部研修で企画され、職員全員を対象として、開催している。研修内容は人権問題全般の内容であり、参加できなかった職員も、研修会で使用した資料が用意され、自己学習できるように配慮している。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自主研修に参加できている。カンファレンス等で、職員間で情報交換を行ない、ケアの充実に努めている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の「つなぐ応援隊」の参加は、続けている。ネットワークづくりは、少しずつできてきている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に、管理者とケアマネで、今住んでおられる所に向き、面談を行なっている。顔を覚えて頂くと同時に、心配事はないか、お話を伺っている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居にあたって面談を行ない、良くお話を聞いている。心配のない形での入居に努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良くお話しをお聞きし、意向に添う様努めている。いろんな選択ができるよう、提案している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴を大切にし、グループホームでも役割を持って、生活をして頂いている。職員は、感謝の言葉を忘れない様にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に、日常の細かいところも密に現状報告し、共有して頂いたうえで、本人様の支援にあたっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望があれば、いつでも対応できる体制ができています。以前住んでいた所の知人の方の電話などはご本人様にお繋ぎしている。	利用者の馴染みの生活が、できる限り途切れないように、利用前の情報だけでなく、利用後の日常生活の中で知り得た情報についても、職員全体で共有され支援に活かされている。地域の散歩やドライブの途中で、利用者の古き良き経験が回帰され、その後の認知症ケアのヒントとなった事例もある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観察を行ない、入居者様同士の関係を、大切にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居となられた方や、他施設に移られた方など、落ち着いた頃に、電話にて、その後の状況をお聞きし、気づいた事などをお話している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの入居者さまの暮らし方の希望に添う様、努めている。お花の好きな方には、時々、庭に花摘みに行ったりしている。	入所時に書式に基づいてアセスメントしている。アセスメントシートに記された本人の思いや、意向に添った生活作りを支援するための介護計画が立てられている。介護計画の実施はモニタリングされ、経過記録に記録している。介護計画実践の中で、再びアセスメントされ、次の計画へと引き継がれるPDCAサイクルが確立されている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を頂き、連携を図っている。入居後も、重ねて希望をお聞きしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、その方に合った生活が送れるように、見守り、付添いを行なっている。また、声掛けにより、お気持ちの把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の居心地の良い環境をめざし、カンファレンスにて、話し合いを重ね、介護計画を作成している。頻回にご本人様の希望等をお聞きしている。介護計画は、ご本人様に説明し、サインを頂いている。	モニタリングシートと経過記録により、介護計画の実施状況と、本人の生活状況が把握されている。定時・随時に開かれるカンファレンスに於いて、本人の担当から出された検討課題に対し、職員たちは主治医から出された意見・助言を参考に、利用者への適切な支援について話し合っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの記録は、行なえている。気づきがあれば、連絡ノートやカンファレンス等で、情報の共有と、介護計画の見直しを行なっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応できる。出来る限り、希望に添うことができるよう、対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と直接お会いする事は、減っているが、敬老の日などに、地域の小学生から、お手紙をいただいたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時は、かかりつけ医の医療情報を必ず頂き、たろうクリニック ドクターとの継続性を、保っていただいている。特に、初診時は、家族の方に同席頂いている。	入居時に説明を受けて、希望された利用者は園の協力医を主治医としている。協力医が月に2回、訪問診療に訪れて、利用者の健康管理を行っている。利用者が専門科を受診する際には、協力医と先方の医療機関とは密に情報交換している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療や、何かあった時など、すぐに連絡が取れるよう体制ができている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お互いに、介護引き継ぎ書や、医療情報提供書などの交換を行なっている。また、入院中に様子を見にうかがったりしている。退院時は、必ず職員が同行している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の承諾書とは別に、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針を、明文化して、入居者や家族に説明し、方針を共有して頂いている。また、その様な状況になりそうな場合は、早めに連絡し、今後の事などの相談をおこなっている。施設、入院等の連携を図っている。	救急搬送時には、「緊急シート」、「薬リスト」、「受診ノート」が整備されている。救急搬送時に同行する職員はこれらの3点を携行している。利用者の変化に応じ家族に電話で報告し、その後の対応について了解を得ている。家族との電話でのやり取りについては、「電話記録ノート」に残してあるので、職員は確認できる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、24時間たろうクリニックへ連絡、指示を受けられる体制ができている。緊急搬送時は、救急シートにて、より迅速に対応できるように、すべての職員に徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災担当者を2名決め、計画的に災害対策に取り組んでいる。消防署からの防災訓練を、年1回行っている。災害時に備え、食料や飲料水の確保をしている。	ハザードマップ上は特に危険区域に指定されていない。火災・地震・風水害等災害の種類に応じて避難計画を整備している。運営推進会議で被害が予想される災害が発生している際には、避難先として利用して欲しいことを伝えている。災害に備えての備蓄品も整備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全人的介護を、職員全員で目指しています。心を傷つけない配慮のある、温かい介護を心がけています。日頃の気づきを、職員全員で共有しています。プライバシーに関して話さない事など、徹底しています。	面会簿は1件ずつのカード式になっていて、訪問者が記載したものは事務室に保管して行くため、いつも白紙のカードが上になっている。排泄チェック表など随時記入する文書類は、訪問者の目に入らないところに置いている。居室、トイレ、浴室扉を開ける際には、プライバシーを意識している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より会話を多くして、御本人様の本音を押し量り、意向に添う様、対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様全員で協力して頂く事と、個人で楽しんで頂く事のメリハリをつけ、一日を元気に過ごして頂ける様、支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度理美容の方に来て頂き、ヘアカットや顔そりをして頂いている。また、山笠の衣装や、浴衣など雰囲気を楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、ごますり、下膳や食器拭きなど、職員と一緒にして頂いている。家庭菜園では、ゴーヤ、トマト、キュウリなどとれたてを、味わって頂いています。	3食とも事業所内で調理しているため、利用者の要望に応じた献立が立て易い。その日の利用者間の感情のやり取りを見て、食堂の席は調整している。菜園に収穫がある時期は、一緒に収穫し、献立に加えている。団らんの食事を楽しむため、テレビは消し、音楽を静かに流している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期の血液検査を参考に、食事量や、水分量を考えて食事づくりをしています。朝、ゆっくり起きられる方は、遅めの時間で召し上がって頂いています。10時のお茶の時間などは、飲みたいものをお聞きしています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや、一部介助をしています。義歯の方は、毎晩、消毒をしています。また、一年に一度歯科検診にお連れしています。緊急性のある方は、すぐに、歯科医院にお連れしています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表により、個人の排泄状況を把握し、対応している。リハパンやパットなど、コスト面も考慮し、職員間で話し合いをしている。利用できる方には、福岡市のオムツサービスの利用をさせて頂いている。	排泄管理表により、個別の排泄パターンに応じたり、サインを読み取って個別に支援している。眠前薬を服用し、夜間の歩行が不安定になる利用者については、ポータブルトイレを貸し出している。トイレ内は夜間でも安心なように24時間点灯している。利用者個々の排泄状況に応じてパッド類は選択している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を送って頂き、午前、午後に軽い運動をさせて頂いています。また、水分をしっかりと摂って頂き、緩下剤の調整は、こまめにしています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、一日おきに入っています。入浴が苦手な入居者様には、歌いながら、楽しいお話しをしながら入っています。また、皮膚の状態観察や、軟膏の塗布の支援を行なっています。	1日おきにお風呂に誘っているが、毎日入浴できるよう準備している。入浴時間は利用者と職員とが楽しく関わる事の出来る大切な時、という理解があるので、ほぼ全員の利用者が毎回入浴している。脱衣場には電熱ファンヒーターが取り付けられており、ピンポイントで一瞬に室内を温めることが出来る。季節湯もホームの楽しみになっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に注意しながら、その方のペースに合わせ、夜間良眠になる様、心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように、職員が服薬管理を行ない、症状に変化があれば、医師に報告しています。訪問診療後、薬の変更等あった場合は、受診ファイルにて、職員に周知徹底を行なっています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーめくりや、お茶碗拭き、洗濯物たのみなど、一人ひとり、できることを楽しみとして、行なっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、積極的な外出は控えているが、お庭に散歩に行ったり、野花を摘んだりして、楽しんで頂いている。	現在は新型コロナの影響で、外出行事は控えめになっているが、散歩は現在でも天候次第で、希望に応じその都度行っている。外出行事の際には、参加者数を抑え、数回に分けて行っている。車椅子搬送車両も所有しているため、全員が参加できる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様と、家族の希望に応じて、トラブルが起きないように、支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙などは、希望されれば直ぐに対応している。携帯電話をお持ちの入居者様もおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花が、玄関や、食堂に飾られている。職員から、草花の説明など行ない、お一人おひとり、手に取って触って頂いている。	玄関から上がると、フロア全体がバリアフリーのフローリングになっている。居室扉も木製で設えてあるため、フロア全体が落ち着いた雰囲気となっている。利用者が日中を過ごすリビングは、幾らか明るめの照明にしてある。廊下にはベンチが置いてあり、利用者はゆっくりと寛ぐことができる。廊下には、足下灯が取り付けられており、夜間も安全に歩くことで出来る。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来る様に、気が合う人と近くにいることができるようにしている。時々、席替えを行ない、気分を変えていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、馴染みの物など、家族と相談して、お部屋に置いていただいている。	居室の入り口は木製の引き戸になっている。間口は広く、車椅子での出入りも楽に行うことができる。扉に取り付けてあるガラスはすりガラスになっているため、外から中の様子は知られない。和室を希望する際には、畳の提供も用意している。居室には、クローゼットとハンガーが設えてあり、収納スペースは大きい。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに心がけ、一人ひとりの行動に付き添いや、見守りを行なっている。ひやりはっと等にあがったものは、すぐに対応し安全に心がけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の目のつく場所に、表記している。理念を全員で理解共有し、地域にどのような貢献ができるか、常に考えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で、地域での買い物等は、減っているが、つながりは、持ちつづけている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦で、地域の方とお会いする機会は減っていますが、連絡、報告は、書類にて行っています。少しでも、事業所の取り組む姿勢を理解して頂けるよう、努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ渦では、電話での交流ではありますが、多くの局面で、御相談、ご協力を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会の会議を、3ヶ月に1回行い、職員全員で身体拘束を行わないケアを、めざしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	コロナ渦で、外部研修は、参加できていないが、自主研修にて、虐待に対する話し合いをもっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自主研修にて職員全員が成年後見制度について、学んでいる。実際に利用されている方も多いため、身近な制度として、職員一人一人が体感している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や、重要事項説明書に基づき、十分理解して頂ける様、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気になることがあると、すぐにご家族に連絡して、ご意見や、ご意向をお伺いしている。細かくコミュニケーションをとることにより、話しやすい対応を心がけている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行なって、意見や希望を聞いている。職員全員で話し合うことにより、一人一人が働きやすい環境になるよう努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のちょっとした時間に、なにか困りごとはないか、気になることはないか、コミュニケーションを、図っている。個人の特技など活かせるよう、配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢に関係なく行なっている。職員は、勤務年数の長い者が多く、楽しく仕事をしている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>朝の申し送りや、カンファレンス等で、常に人権に配慮した介護を行なう様、職員間でお互いに声を掛け合っている。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自主研修に参加できている。カンファレンス等で、職員間で情報交換を行ない、ケアの充実に努めている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の「つなぐ応援隊」の参加は、続けている。ネットワークづくりは、少しずつできてきている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に、管理者とケアマネで、今住んでおられる所に出向き、面談を行なっている。顔を覚えて頂くと同時に、心配事はないか、お話を伺っている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居にあたって面談を行ない、良くお話を聞いている。心配のない形での入居に努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良くお話しをお聞きし、意向に添う様努めている。いろんな選択ができるよう、提案している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴を大切にし、グループホームでも役割を持って、生活をして頂いている。職員は、感謝の言葉を忘れない様にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に、日常の細かいところも密に現状報告し、共有して頂いたうえで、本人様の支援にあたっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望があれば、いつでも対応できる体制ができている。以前住んでいた所の知人の方の電話などはご本人様に、お繋ぎしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観察を行ない、入居者様同士の関係を、大切にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居となられた方や、他施設に移られた方など、落ち着いた頃に、電話にて、その後の状況をお聞きし、気づいた事などをお話ししている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの入居者さまの暮らし方の希望に添う様、努めている。お花の好きな方には、時々、庭に花摘みに行ったりしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を頂き、連携を図っている。入居後も、重ねて希望をお聞きしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、その方に合った生活が送れるように、見守り、付添いを行なっている。また、声掛けにより、お気持ちの把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の居心地の良い環境をめざし、カンファレンスにて、話し合いを重ね、介護計画を作成している。頻回にご本人様の希望等をお聞きしている。介護計画は、ご本人様に説明し、サインを頂いている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの記録は、行なえている。気づきがあれば、連絡ノートやカンファレンス等で、情報の共有と、介護計画の見直しを行なっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応できる。出来る限り、希望に添うことができるよう、対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と直接お会いする事は、減っているが、敬老の日などに、地域の小学生から、お手紙をいただいたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時は、かかりつけ医の医療情報を必ず頂き、たろうクリニック ドクターとの継続性を、保っていただいている。特に、初診時は、家族の方に同席頂いている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療や、何かあった時など、すぐに連絡が取れるよう体制ができている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お互いに、介護引き継ぎ書や、医療情報提供書などの交換を行なっている。また、入院中に様子を見にうかがったりしている。退院時は、必ず職員が同行している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の承諾書とは別に、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針を、明文化して、入居者や家族に説明し、方針を共有して頂いている。また、その様な状況になりそうな場合は、早めに連絡し、今後の事などの相談をおこなっている。施設、入院等の連携を図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、24時間たろうクリニックへ連絡、指示を受けられる体制ができている。緊急搬送時は、救急シートにて、より迅速に対応できるように、すべての職員に徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災担当者を2名決め、計画的に災害対策に取り組んでいる。消防署からの防災訓練を、年1回行っている。災害時に備え、食料や飲料水の確保をしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全人的介護を、職員全員で目指しています。心を傷つけない配慮のある、温かい介護を心がけています。日頃の気づきを、職員全員で共有しています。プライバシーに関して話さない事など、徹底しています。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より会話を多くして、御本人様の本音を押し量り、意向に添う様、対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様全員で協力して頂く事と、個人で楽しんで頂く事のメリハリをつけ、一日を元気に過ごして頂ける様、支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度理美容の方に来て頂き、ヘアカットや顔そりをして頂いている。また、山笠の衣装や、浴衣など雰囲気を楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、ごますり、下膳や食器拭きなど、職員と一緒にして頂いている。家庭菜園では、ゴーヤ、トマト、キュウリなどとれたてを、味わって頂いています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期の血液検査を参考に、食事量や、水分量を考へて食事づくりをしています。朝、ゆっくり起きられる方は、遅めの時間で召し上がって頂いてます。10時のお茶の時間などは、飲みたいものをお聞きしています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや、一部介助をしています。義歯の方は、毎晩、消毒をしています。また、一年に一度歯科検診にお連れしています。緊急性のある方は、すぐに、歯科医院にお連れしています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表により、個人の排泄状況を把握し、対応している。リハパンやパットなど、コスト面も考慮し、職員間で話し合いをしている。利用できる方には、福岡市のオムツサービスの利用をさせて頂いている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を送って頂き、午前、午後に軽い運動をさせて頂いています。また、水分をしっかり摂って頂き、緩下剤の調整は、こまめにしています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、一日おきに入っています。入浴が苦手な入居者様には、歌いながら、楽しいお話しをしながら入っています。また、皮膚の状態観察や、軟膏の塗布の支援を行なっています。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に注意しながら、その方のペースに合わせ、夜間良眠になる様、心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように、職員が服薬管理を行ない、症状に変化があれば、医師に報告しています。訪問診療後、薬の変更等あった場合は、受診ファイルにて、職員に周知徹底を行なっています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーめくりや、お茶碗拭き、洗濯物たのみなど、一人ひとり、できることを楽しみとして、行なっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、積極的な外出は控えているが、お庭に散歩に行ったり、野花を摘んだりして、楽しんで頂いている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様と、家族の希望に応じて、トラブルが起きないように、支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙などは、希望されれば直ぐに対応している。携帯電話をお持ちの入居者様もおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花が、玄関や、食堂に飾られている。職員から、草花の説明など行ない、お一人おひとり、手に取って触って頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来る様に、気が合う人と近くにいることができるようにしている。時々、席替えを行ない、気分を変えていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、馴染みの物など、家族と相談して、お部屋に置いていただいている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに心がけ、一人ひとりの行動に付き添いや、見守りを行なっている。ひやりはっと等にあがったものは、すぐに対応し安全に心がけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		